新任のあいさつ

鈴木　　玲

四月から専任研究員になった鈴木玲です。1986年に上智大学法学部卒業後，３年間のサラリーマン生活を経て，1989年に米国ウィスコンシン大学（マディソン校）社会学部大学院に留学しました。ウィスコンシン大学では，経済社会学，労働社会学，労使関係論などを学び，1997年に社会学博士号を取得しました。博士論文では，戦後日本労働運動の協調的路線と戦闘的路線の「二極化」の過程と，協調的路線のヘゲモニー確立の過程を，主に鉄鋼労連と国労の事例を通じて分析しました。博士論文の一部は，「戦後日本の鉄鋼産業における協調的企業別労働組合の成立－組合内政治を通じての分析」『レヴァイアサン』（1998年冬号），“Toward an Alternative Analytic Approach to the Internal Politics of Unions.” *The International Journal of Japanese Sociology*（日本社会学会）第７号（1998 年11月）,「組合内政治と組合路線―国労の事例研究を通じた理論的考察」『労働社会学研究』（日本労働社会学会）第1号（1999年1月），で発表しています。大原社会問題研究所では，ホームページを担当し，前任の二村一夫先生が作成された膨大な社会・労働関係リンク集のメンテナンスおよび拡充，電子メールニュースレター“ OISR-WATCH ”の発行などを行っています。よろしくお願いします。

（すずき・あきら　法政大学大原社会問題研究所助教授）

野村　一夫

四月から兼任研究員となりました野村です。1955年生まれのフリーランスの社会学者です。関心領域は「コミュニケーションとディスコミュニケーションの社会理論」ですが，これまでこれに関する社会学的基礎理論やメディア論などを研究してきました。現在は，ヘルシズムをテーマにした医療社会学の共同研究プロジェクトを中心に研究活動をおこなっています。とくに広告などのコンテンツにおける健康の語られ方について社会構築主義的なアプローチで取り組んでいます。また「社会学教育は社会学そのものである」との観点から社会学教育についての著作も発表してきました。

単著に『社会学感覚』（文化書房博文社1992年，増補版1998年），『リフレクション』（文化書房博文社，1994年），『社会学の作法・初級編』（文化書房博文社，1995年，改訂版1999年），『インターネット市民スタイル』（論創社，1997年）。共著に『マックス・ウェーバー宗教社会学関係文献目録』（文化書房博文社，1990年），『社会学のプロフィール』（八千代出版，1995年）があります。

現在，当研究所以外では，法政・日本・立教・東洋・聖心女子大学の非常勤講師をしています。インターネット上では1995年８月から「ソキウス」（Socius）という社会学サイトを運営してきました（http://socius.org）。ここでのノウハウを当研究所のサイト運営にも生かしていきたいと考えています。よろしくお願いします。nom@socius.org

（のむら・かずお　法政大学大原社会問題研究所兼任研究員）